

2014年度 多摩美術大学芸術学科 公募制推薦入試 参考作品
提出課題：「空想の 」のプロデューサーとして自由にプランを企画してください。

「ASOBI picture 展」

意図

私は優れた大衆芸術には、その作品に触れた人を笑顔にするような、作者の独特かつ多様な感覚が感じ取れるエッセンスが含まれていると思っています。そのエッセンスが、作品の「個性」や「遊び心」に繋がるのです。私はこういった要素を「ASOBI」というキーワードに凝縮してみたいと考えました。

「ASOBI」の要素はあらゆる大衆芸術に共通して存在していると考えますが、中でも西洋絵画や浮世絵という芸術には顕著に現れていると思います。それは、時代や地域を超えて或る部分で、共通しているものだと思うのです。

作者の「遊び心」を感じる作品を、絵の描かれた年代や地域を問わずに展示する事によって、作品に共通する「遊び心」の本質や視点、感覚を解き明かし、異なる「個性」を感じたい。そして、絵は誰もが気軽に愉しめるものだという事をより多くの人に知ってもらい、絵という芸術の愉しみをより身近に感じてもらいたいという思いから、この「ASOBI picture展」の企画を考案しました。

さらには作品への興味を深め、作品をより広く知ってもらう為に来場者一人一人が展示に参加出来る「ASOBI」を提案します。絵を愉しむのに遅い早いはありません。絵の自由さ、そしてその面白さを来場者全員に感じてもらいたいのです。

アイデア①

ターゲットとするのは、幼稚園～小学校の子供たち、そしてその親世代である30～40代の大人たちです。

小さな子供たちは、新しく知った情報を人に伝えたくなるものなので、大人用と子供用2種類のキャプションを用意し、それらの内容にも少し変化をつけます。こうする事で、子供たちは得た情報を大人に「教えてあげる」事ができ、情報を共有する為の会話によって「親子のコミュニケーション」の楽しみも生まれます。

アイデア②

さらに、美術館は「走ってはいけない」「触ってはいけない」「う

るさくしてはいけない」と、マナーだらけで、子供たちはマイナスのイメージを持つ場合が多い筈です。そんなイメージを持たせない為に、「ASOBI」に徹したクイズラリー（※資料参照）を取り入れます。

こういったアトラクション的要素を取り入れ、楽しんでもらう事で子供たちには「美術館に行くこと」や「絵を見ること」自体を好きになってもらいたいのです。

クイズがある事によって子供たちは絵を楽しみながら観察でき、様々なジャンルの作品を万遍なく鑑賞する事が出来ます。

アイデア③

また、ミュージアムショップでは、一般的なポストカードや記念パンフレット等だけでなく、「今日から絵を始めよう」をコンセプトとした画材のセット等も販売したいと考えます。

色鉛筆とクロッキー帳の500円前後で手に入れやすいセットから、本格的な水彩画を始められるセット。また、子供向けだけでなく、大人も楽しめる塗り絵などを販売したいと考えます。

内容

第一の「ASOBI 展示」は、絵画や浮世絵などの様々なジャンルの動物の絵を展示する事で、人々が家畜やペットの動物たちといかに触れ合い共存してきたのか、そして動物と人間の関係性はどのように変化したのかを見て行きます。

「ASOBI」のポイントとして、擬人化された動物の絵を多く展示しようと考えます。

「眠れるジプシー女」（1897年／アンリ・ルソー）

大人向けキャプション：フランス人画家アンリ・ルソーの代表作。夜の砂漠で眠るジプシー女と、傍に寄る獅子、そして銀色に輝く月が印象的な一枚。獅子は力強く描かれているが、百獣の王らしい獰猛さは窺えず、主人にすり寄る猫のようにさえ見える。

子供向けキャプション：この絵の舞台は、砂漠の真ん中。ライオン

たとえば、強くて怖いイメージがあるけれど、この絵の中のライオンはどうだろう？寝ている女の人を傷付けようとしているように見える？それとも、クンクン匂いを嗅ぐだけ？絵をよく観察して、考えてみよう！

「金魚づくし いかだのり」（1839年頃／歌川国芳）

大人向けキャプション：言わずと知れた歌川国芳の作品。希代の猫好きであった歌川国芳だが、様々な動物を好んで描いており、これは「金魚づくし」のシリーズの内一枚。尾ひれを捲り身体に止めた様は、まるで着物のたすきがけのようである。画面右上の作品タイトルは枠まで凝っていて、170年以上前の作品とは思わせないポップセンスを感じる。

子供向けキャプション：二匹の金魚が、いかだに乗っているよ。金魚は水の中に住んでいるのに、舟に乗っているなんて、なんだかおかしいね！この金魚たちは、「船頭」という仕事をしているよ。船頭は、この絵が描かれた江戸時代、すごくかっこよくって人気のあった仕事だったんだ。

「猫の介科」（1809年頃／歌川豊国）

大人向けキャプション：一人の男性が、猫の格好をして餅花にじゃれている。当時は動物が擬人化された絵や、人間が当時の身振りを真似した絵が流行していた。もしかするとこの絵も、現代で言うギャグ漫画のような位置付けだったのかもしれない。

子供向けキャプション：猫が梅の花を見上げて、枝にじゃれているように見えるね。でも、猫は着物を着ているし、手や足はまるで人間みたい…？どこか様子がおかしい！よく見てみれば、男の人が猫の真似をしているぞ。ちなみに、この絵を描いた歌川豊国さんの本名は…「倉橋熊吉」といったんだよ。

【その他の作品例】

「世界を見ていた猿」「下層社会の生活」（エドウィン・ランドローシア）

- 「アルプスの真昼」「編み物をする娘」(ジョヴァンニ・セガンティ
ーニ)
- 「ネコが喉を鳴らす音」(アルベール・アンカー)
- 「鳥のいる風景」(ルーラント・サーフェリー)
- 「Animols Entering the Ark」(ヤコポ・バッサーノ)
- 「Mamluk Resting」(カルル・ヴェルネ)
- 「The monkey picture」(ヘンリー・チャーチ)
- 「子犬図」(円山応挙)
- 「犬と立美人」(礪川亭一指)
- 「百犬図」「鸚鵡図」(伊藤若冲)
- 「睡猫図」(森寛斎)
- 「風流十二支」(磯田湖龍斎)
- 「景年花鳥画鏡」(今尾景年)
- 「鍵屋お仙と猫を抱く若衆」(鈴木春信)
- 「兎の草履打」「しん板猫のそばや」(四代目歌川国政)
- 「しん板猫尽両めん合」(歌川芳藤)
- 「ハツ當りどふかけふもり」「蝦蟇手本ひやうきんぐら」「道外 獣
の雨やどり」「金魚づくし そさのおのみこと」(歌川国芳)

第二の「ASOBI 展示」は、作者の「遊び心」と想像力が描き出した非日常的な絵を展示する事で、人々の空想の世界はどのように変化したのかを見て行きます。

【作品例】

- 「ウェルトゥムヌスに扮するルドルフ二世」「フローラ」「庭師」「司
書」(ジュゼッペ・アルチンボルド)
- 「今様擬源氏・早蕨 怪童丸」(落合芳幾)
- 「芳年武者无類 主計頭加藤清正」「百器夜行」(月岡芳年)
- 「道外 上下貝之図」(歌川芳虎)
- 「即興かけほしづくし」(歌川広重)
- 「風流百目玉」(作者不明)
- 「人かたまって人になる」(歌川国芳)

〈資料〉 絵の展示例と クイズラリーについて



大人向け
キャプション

クイズ

(クイズ例)
Q.1 この絵に描かれた
男の人の「あご」は
何の野菜でできているかな？
①たまねぎ
②くり
③とうもろこし

子供向け
キャプション

※退場口にてクイズラリーの
答え合わせを行い、正解の場合は
本展に展示されている絵画や浮世絵を
デザインした非売品缶バッジなどの
特典をプレゼントします。